

お夏清十郎比翼塚の由緒

江戸時代の劇作家西鶴の五人女、近松の歌念仏で有名なお夏は、姫路城の大手門にあたる本町の米問屋但馬屋九左衛門の娘に生まれ、清十郎は姫路の西方、室津港の造り酒屋和泉清左衛門の息子で、何不自由のない家庭に育ち、錦絵にも優る美男であったが、故あって清十郎は十九才の時、但馬屋に勤める身になり、明け暮れ律義に勤めたので万人から好かれるようになった。いつしかお夏と清十郎は深い相想の仲となったが、九左衛門はこれを許さなかった。思いもよらぬ濡れ衣に依って、あたらふ二十五才の時清十郎ははかなくも刑場の露と消えたのである。此の事を知ったお夏は、墨染の衣に身をつつんで続経三昧に暮し、ひたすら清十郎の冥福を祈った。但馬屋も二人の純愛に打たれ、「比翼塚」をつくって、其の霊を慰めたと云う。

むこうを通るは清十郎じゃないか
笠がよう似た菅笠が……

と云う俗謡が大流行し、畏くも天皇上聞に達し、御製を賜わりたるもの。

御製

後水尾天皇

清十郎 きけ

夏が来たりと

杜宇トビ

後西天皇

笠がよう似た

ありあけの 月























清十郎もふか

軽車両を除く

山崎子司 松尾 TEL 22-1526

清十郎もふか本店

1日158円



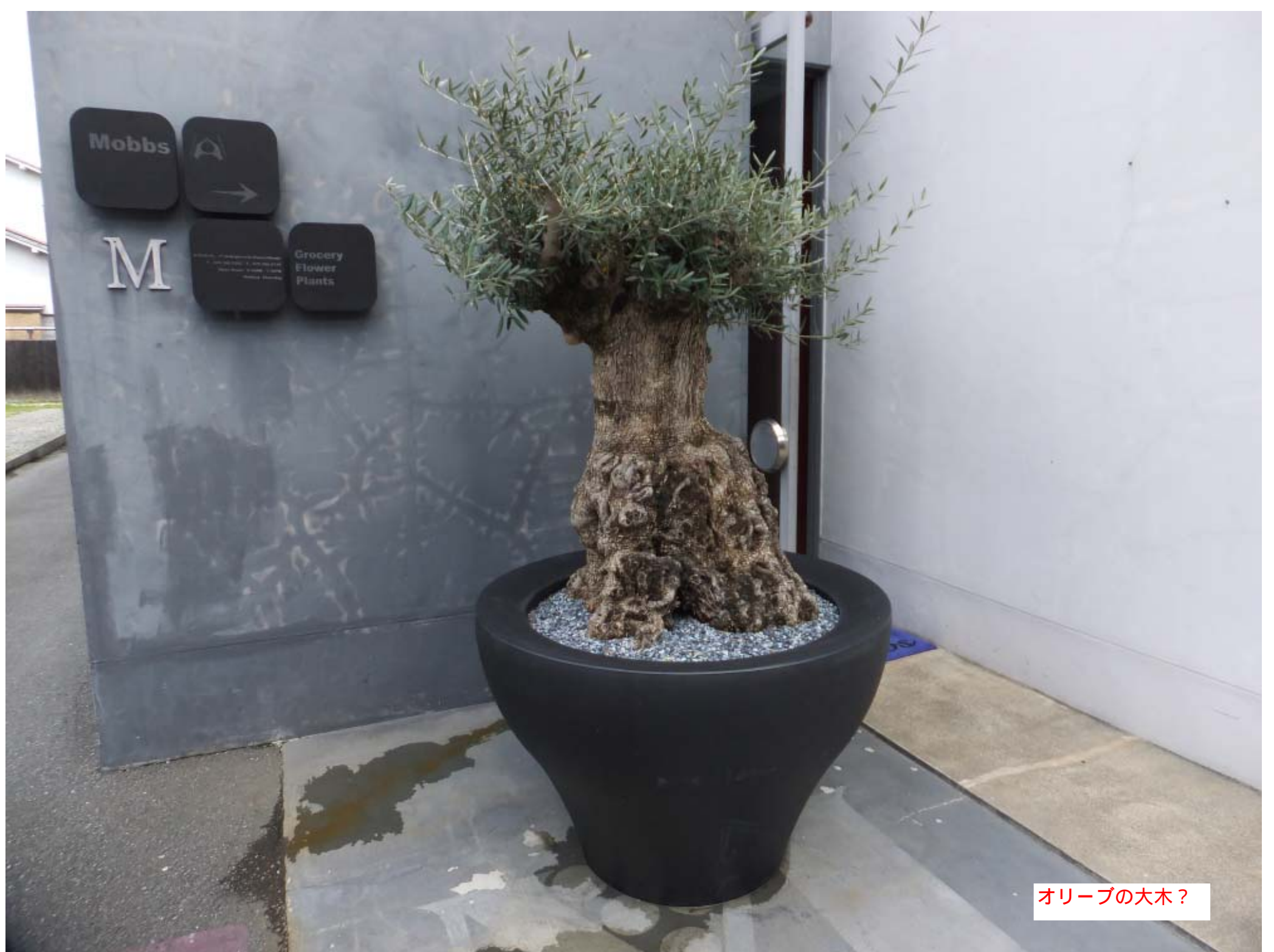








天理教節東大教会



オリーブの大木？



TEL 85-3573

Coca-Cola
Coca-Cola

